

進路教育部会

一人ひとりにあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか ～小・中における授業実践を通して～

PISA の学習到達度調査から日本の高校生が理科や数学の「学びがい」について国際的に低いという結果が出ている。学校教育においては、時代の変化に力強く、かつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人、職業人の育成を図ることが求められている。勤労観や職業観の意識が低い児童・生徒が多い実態に加え、人間関係が上手くつくれず悩んでいる生徒も見られる。このような状況から、望ましい勤労観や職業観を身につけるキャリア教育を、早い時期から推進することは重要な課題である。そのため、将来の就きたい仕事や将来の自分のために学習する意欲を高め、キャリア教育を充実させる必要がある。

各校では、進路指導に係る職業調べ、職業体験など体験的な活動を積極的に取り入れている。本部会では、地域の実態をもとに行った様々なキャリア教育の実践を知ると共に、その意義や効果的な進め方等を互いの実践から学びあう研修をおこなっている。以上の取組を通し、子どもたちを育てると同時に教師の指導力も高めることが本研究部会のねらいである。

I 研究の内容

1 研究方法

- (1) 小学校・中学校ともに授業実践を行う。
- (2) 各教科の授業とキャリア諸能力との関連を明らかにし、各校から実践例をもちより共有する。
- (3) 高等学校より講師を招聘し、高校入試制度の課題を検証する。

2 研究の具体的内容

(1) 授業実践

ア 祝小中学校（小林淳子教諭）第2学年生活科

単元名 : 発見！町へとびだそう（日本文教出版2年）

小単元名 : 身近な人（保護者）の仕事

本時の目標 : 考えや思いを発表し、友だちの考えや思いを聞き感想を言ったり質問をしたりして、考えや思いを広げることができる。

イ 松里中学校（古屋友香教諭）第3学年英語科

単元名 : New Horizon English Course3 Unit6 Striving for a Better World

本時の目標 : 人やものについて詳しい情報を加えながら説明することができる。人物に関する発表を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。

(2) 実践・資料発表

祝小	生活科を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
山梨南中	学校外と連携した実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
山梨北中	学校外と連携した実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
笛川中	生徒会活動を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
塩山中	理科授業を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
塩山北中	施設訪問活動を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
松里中	国語科授業を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
勝沼中	英語科授業を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介
大和中	職場体験学習を通じた実践，キャリア教育年間指導計画の紹介

II 成果と課題

1 成果

- ・小中どちらの授業も参観することで，9年間を見通したキャリア教育を考えることができた。
- ・キャリア教育の視点を取り入れた授業を通して，生徒につけるべき力について再確認できた。
- ・キャリア教育に関わり，日頃の実践の工夫が聞ける機会となり勉強になった。
- ・職場体験以外の様々な教科での取組の様子なども分かって有意義だった。
- ・他校種，他教科の実践資料により，進路学習やキャリア教育を色々な視点から捉えることができ，授業研究などは良い勉強になった。
- ・統一授業研究で，キャリア教育について深く学ぶことができた。児童にとっても良い学習の機会となった。

2 課題

- ・職場体験や進学指導に加え，各教科の研究と連携した幅の広い進路指導が必要である。
- ・小学校の先生方の参加を促す方法を考え，小中連携を充実させたい。
- ・担当学年による所属部会員のみになってしまうと研究の深みを感じにくくなるので，できるだけ継続して所属するようになることが望ましい。

III 研究の成果物

小学校2年生活科学習指導案，中学校3年英語科学習指導案，各校実践レポート

(部長 古屋 浩紀)